

# 支部事業報告書

支部名： 関東支部

支部長名： 川邊 武史

## 1 支部活動の概要報告

(特記事項含む)

2月17日に支部総会・幹事会を開催し、2021年度事業報告・収支報告を行うとともに2023年度事業計画書・収支予算を了承。 新型コロナウイルスの影響を考慮し、各事業を状況を見ながら対面またはオンラインにて開催。
6月3日：「くすりと健康2023講演会」を長井記念ホールにて対面開催。
7月25日：支部奨励賞選考委員会を開催。5名の授賞者を選考した。
8月1日：杏林製薬㈱協力のもと小学4～6年生を対象とした「子ども実験企画」を栃木県にある杏林製薬㈱わたらせ創薬センターにて対面開催。
9月16日：明治薬科大学キャンパスにて「関東支部大会」「若手シンポジウム」を対面開催。同日、支部幹事会も支部大会内にて対面開催した。
10月14日：「学術講演会」を長井記念ホールにて対面開催。
11月18日：「薬剤師向け研修講演会」をオンラインにて開催。
12月6・13・20日：「オンライン受賞記念講演会」を開催。

## 2 支部活動の実施報告

1 支部総会等の開催				
名称	日時	場所	参加者数	特記事項
第67回 支部総会	2023/2/17	オンライン開催	137名	理事会報告、支部長・部会長会議報告、執行部会報告、2022年度事業報告・収支計算書について、2023年度事業計画・収支予算について  「基礎・臨床・実務の多様性が次世代医療を創る」 一般演題発表 374件 (口頭：129演題、ポスター：245演題)
第67回 支部大会	2022/9/16	明治薬科大学	870名	【シンポジウム】 ・「創薬化学の深化と多様化」 ・「RNA研究が拓く新しい疾患克服へのアプローチ」 ・「老化研究の多様性と予防医学による健康寿命延長の可能性を探る」 ・「炎症性疾患への薬理的アプローチ」 ・「薬剤学を基盤としたトランスレーショナル研究の最前線」 ・「次世代医療に繋ぐための薬物治療学教育」
2 会議等の開催				
名称	日時	場所		特記事項
第1回幹事会	2023/2/16	オンライン開催		2023年度事業計画、支部大会開催学校、支部奨励賞応募依頼について
新旧 執行部会	2023/2/16	オンライン開催		新旧執行部引継、委員紹介、執行部、支部事業について
奨励賞 選考委員会	2023/7/25	オンライン開催		応募総数8件より5名の受賞者を選考 今後の募集・選考方法について協議
第1回 執行部会	2023/8/7	オンライン開催		理事会・支部長/部会長会議・事業報告、次年度支部実施体制・2023年度事業計画/予算書・次期役員候補者/選考委員の推薦、次年度副支部長選出について協議
第2回 執行部会	2023/9/4	オンライン開催		事業報告、2024年度事業計画/予算書、2028年度支部大会開催校について協議
第2回 幹事会	2023/9/16	明治薬科大学		理事会・支部長/部会長会議・執行部会・事業報告、選挙について、2024年度事業計画・予算書について
第3回 執行部会	2024/1/24	オンライン開催		開催予定
第3回 幹事会(総会)	2024/2/16	オンライン開催		開催予定

3 事業				
名称	日時	場所	参加者数	特記事項
市民講座	2023/6/3	長井記念ホール	52名	<p>【くすりと健康2023講演会】</p> <p>1「国際宇宙ステーションを活用した高品質タンパク質結晶生成実験の過去現在未来」山田 貢 先生 (宇宙航空研究開発機構(JAXA))</p> <p>2「セルフメディケーションで豊かな暮らしをしよう」渡辺 謹三 先生 (東京生薬協会)</p>
子ども実験企画	2023/8/1	オンライン開催 (杏林製薬(株)わたらせ創薬センター)	20組 (親子)	<p>【夏休み子供実験教室】</p> <p>「今日から君もおくすり博士！」</p> <p>研究所見学と研究者の指導のもと各自実験を行った。</p>
若手シンポジウム	2023/9/16	明治薬科大学 (支部大会併催)	約80名	<p>【製剤の体内動態を精細に解明する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過飽和製剤による難溶性薬物の経口吸収性改善メカニズム (千葉大学薬学研究院 植田圭祐)</li> <li>・超音波セラノスティクスシステムを指向したナノバブル注射剤の開発 (東京薬科大学 高橋葉子)</li> <li>・マイクロニードル技術を活用した新たな経皮吸収製剤の品質評価法の開発 (国立医薬品食品衛生研究所 安藤大介)</li> <li>・Nose-to-Brainを指向した中枢標的経鼻投与製剤の設計 (日本大学薬学部 鈴木直人)</li> <li>・分化誘導を基盤とする肺胞再生を目指した脂質ナノ粒子を用いた吸入粉末システムの開発 (東京理科大学薬学部 秋田智后)</li> </ul>
学術講演会	2023/10/14	長井記念ホール	65名	<p>【医薬品CMCをリードする分析研究の最前線】</p> <p>1. 技術軸□</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「安定性予測・HPLCピークデコンボリューション手法開発事例」野田陽 (株式会社 島津製作所)</li> <li>・「クロマトプロセスの仕組化が叶える創薬研究の自動化・効率化」三輪勝彦 (株式会社ChromaJean)</li> <li>・「CMC分析研究におけるNMRの活用」江奈英里 (エーザイ株式会社)</li> </ul> <p>2. モダリティ軸</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「抗体を主とするバイオ医薬品のCMC分析における質量分析の活用方法」川瀬直樹 (アステラス製薬株式会社)</li> <li>・「抗体薬物複合体医薬品の開発を支える品質評価技術」大橋潤二 (第一三共株式会社)</li> <li>・「mRNA医薬の品質評価法に関する研究」山本武範 (国立医薬品食品衛生研究所)</li> </ul>
薬剤師向け研修講演会	2023/11/18	オンライン開催	147名	<p>【周産期女性・小児に対する薬物療法の適正化を考える】</p> <p>1「小児における薬物療法への関わりとエビデンスの創出」齊藤順平 (国立成育医療研究センター 薬剤部)</p> <p>2「妊娠と薬外来への関わりとエビデンスの創出」小澤秀介 (信州大学医学部附属病院 薬剤部)</p> <p>3「新生児科医から見た周産期における薬物療法」伊藤直樹 (帝京大学医学部附属病院 小児科)</p>

オンライン受賞記念講演会	2023/12/6・13・20	オンライン開催	全体で 191名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「細胞接着ペプチドのバイオマテリアルへの応用」山田雄二 先生（東京薬科大学）</li> <li>・「新規薬剤開発および薬物療法を目指した生体内代謝物トランスポーターの機能解析」樋口慧 先生（東京薬科大学）</li> <li>・「ドナー・アクセプター型分子の特性を利用した分析試薬の開発」梅野智大 先生（京都府立医科大学）</li> <li>・「ウレア誘導体を基軸とした低分子ゲル化剤の開発と応用」山中正道 先生（明治薬科大学）</li> <li>・「薬物副作用の個人差の背景に潜むメカニズムの解明」青木重樹 先生（千葉大学大学院）</li> <li>・「生体システムが創発する複雑性に基づく生体応答・薬理応答の解析基盤構築：骨代謝から生体一般へ」苅谷嘉顕 先生（東京大学大学院）</li> <li>・「ラジカル化学種の発生手法開拓及び合成化学展開」中島誠也 先生（東京大学大学院）</li> <li>・「雄性生殖を介した継世代影響を予期する新規毒性評価法の開発」横田 理 先生（国立医薬品食品衛生研究所）</li> <li>・「合成レチノイド Am80 による分化誘導を基盤とした COPD 根治治療法と吸入粉末剤の開発」秋田智后 先生（東京理科大学）</li> <li>・「アストロサイトの機能分子を標的とした脳損傷に対する創薬研究」道永昌太郎 先生（明治薬科大学）</li> <li>・「理論計算を基軸とした天然物の生合成機構研究」佐藤 玄 先生（山梨大学）</li> <li>・「執筆活動による薬学教育ならびに薬剤師生涯教育への貢献」夏苺英昭 先生（新潟薬科大学）</li> </ul>
--------------	-----------------	---------	-------------	--

#### 4 若手のための取組

・支部奨励賞については引き続き、HPや幹事等を通じ各分野からの積極的な応募を呼びかける。

・薬学会本部からレベルの高い研究成果を持つ若手研究者に「日本薬学会奨励賞」に積極的に応募して欲しいとご意見をいただいている。過年度支部奨励賞受賞者などにはさらに上を目指していただくべく、本人や研究グループ主宰者などに呼びかける。

・支部奨励賞では薬剤師等の研究を褒賞する「臨床薬学」を別枠として設けている。本年度もご応募いただいたが、支部奨励賞選考基準に合致しないケースも有り、受賞には至らなかった。別途、若手・中堅を対象とする「医療・臨床薬学支部表彰」のような制度の必要性について、支部執行部会などでの議論を継続する。

・支部大会では優秀賞を口頭・ポスター発表とも選考・表彰している。若手の研究意欲を高める取り組みとして、学生をはじめ参加者の評価が高い。薬学会の入会促進や基礎・臨床薬学分野に関する啓蒙の意義が深く、今後も継続する。

#### 5 奨励表彰(名称)

5 奨励表彰(名称)	受賞者名	演題・対象研究・副賞
支部奨励賞（5名）	梅野 智大 (昭和薬科大学)  苅谷 嘉顕 (東京大学大学院薬学系)  横田 理 (国立医薬品食品衛生研究所)  樋口 慧 (東京薬科大学)  秋田 智后 (東京理科大学薬学部)	「ドナー・アクセプター型分子の特性を利用した分析試薬の開発」  「生体システムが創発する複雑性に基づく生体応答・薬理応答の解析基盤構築：骨代謝から生体一般へ」  「雄性生殖を介した継世代影響を予期する新規毒性評価法の開発」  「新規薬剤開発および薬物療法を目指した生体内代謝物トランスポーターの機能解析」  「合成レチノイドAm80による分化誘導を基盤としたCOPD根治治療法と吸入粉末剤の開発」
第67回支部大会 優秀口頭発表賞（11名）	神田 治樹 (千葉大学)  岩澤 太陽 (日本大学)  鈴木 智博 (北里大学)  篠原 功紀 (東京医科歯科大学)  田中 美有 (東京薬科大学)  藤本 泰輝 (千葉大学)	「銀ナイトレン種を用いた位置選択的なC-Hアミノ化反応の開発」  「アンモニア水を用いた脱水縮合による第一級アミドの触媒的合成」  「ODTAA誘導体を基盤とした新規MBL阻害剤創製研究」  「フッ素化及びチオアミド置換を活用した新規SARS-CoV-2メインプロテアーゼ阻害剤の創製」  「MA026環化酵素を用いた化学酵素ハイブリッド合成法の開発」  「PEG修飾がdoxorubicin封入リポソームの薬物封入効率及び形態変化に及ぼす影響」

優秀ポスター発表賞 (18名)

鈴木 宙夢  
(日本大学)  
石井 宏剛  
(日本大学)  
木下 碧  
(東京理科大学)  
葛西 隆広  
(東京理科大学)  
高畑 和彦  
(明治薬科大学)  
君島 仙晃  
(明治薬科大学)  
富田 啓輔  
(千葉大学)  
坂巻 李海  
(東京薬科大学)  
野本 彩音  
(東京理科大学)  
松本 ゆきの  
(千葉大学)  
西田 優理華  
(慶應義塾大学)  
小達 萌未  
(明治薬科大学)  
宮本 雄太  
(東邦大学)  
加藤 優英  
(明治薬科大学)  
青木 祐賢  
(明治薬科大学)  
史 佳  
(星薬科大学)  
清野 航  
(芝浦工業大学)  
蓮見 潤  
(東京理科大学)  
宮澤 つぐみ  
(東京薬科大学)  
鈴木 章平  
(東京薬科大学)  
山口 咲  
(明治薬科大学)  
佐々木 悠里  
(東邦大学)  
清水 美衣  
(東京理科大学)

「時計遺伝子Bmal1による膵機能調節」  
「時計遺伝子Bmal1による脂肪細胞機能調節」  
「がん細胞の放射線細胞応答における浸透圧変化が与える影響の解明」  
「がん幹細胞の非対称分裂を起点としたがん組織不均一性獲得機構の解明」  
「関節リウマチ患者の生物学的製剤在宅自己注射に関する医療経済評価」  
「環状及び直鎖状モノウレアのゲル化能評価」  
「銀カルベンを用いたインドール類のベンゼノイド部位の脱芳香族型シクロパン化反応の開発」  
「細胞内滞留型カルボキシエステラーゼ活性検出蛍光プローブの開発」  
「リン酸モノエステルの触媒的加水分解を目的とした両親媒性超分子触媒の設計と合成」  
「銀ナイトレン種を用いた鎖状アミドにおけるアミド挿入反応の開発」  
「ALSの原因となるTDP-43の沈殿形成を抑制するRNAの探索」  
「口腔内崩壊フィルム製剤の組成最適化に向けた表面自由エネルギー評価」  
「慢性容量負荷モデルラットにおける左右心房の電気生理学的特徴の相違  
—左房の*In vivo*/*In vitro*電気生理学検査法の確立を通じて—」  
「PTK2B遺伝子の選択的スプライシング制御因子の同定」  
「CUGリピートRNAによるMBNL1タンパク質発現量への影響」  
「ヘパラーゼによる炎症性サイトカインの産生促進作用：NF- $\kappa$ Bの関与」  
「飢餓ストレス下における肝臓内のGTP感知機能の重要性」  
「カロリー制限においてMIPEPが脂肪組織に与える影響」  
「超音波応答性ナノバブルとLNP併用による筋選択的mRNAデリバリーシステムの構築」  
「遺伝子搭載ナノバブル調製時におけるキトサンオリゴ糖コーティングの有用性評価」  
「超低出生体重児におけるクレアチニンクリアランスの評価に関する検討」  
「Dapagliflozinの慢性投与が慢性容量負荷モデルラット心房の不整脈特性に及ぼす影響」  
「Cells Alive Systemを用いた間葉系幹細胞製剤の製剤設計とその評価」

6 会員数増強のための取組

- ・若手奨励の項目に示した「医療・臨床薬学」に関する表彰は、学生時代に日本薬学会に入会したものの、卒業後薬剤師として働くうちに、薬学会から退会してしまうことを抑制し、会員数の確保を図る活動の一つである。
- ・大学薬学部、薬科系大学の若手の教員の中には、分野によっては日本薬学会会員でないケースが散見される。幹事などを通じ日本薬学会や支部の活動を紹介、入会を奨励する。
- ・薬剤師や子供を含む一般市民を対象とした研修・啓蒙活動は継続し、幅広く薬学会の活動を理解していただくことにより、薬剤師会員の確保ならびに将来的な会員増強を図る。

7 その他の事業

\* 当該支部の該当項目に限りご記入ください。